長洲町立長洲小学校　校長便り　No.９６

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年６月５日(月)

《雑感》「大人を試す子供達」

私は毎日校舎内を散歩します。（暇だからじゃないので、お間違えの無いように。）その時、違和感を覚えることがあります。言葉で表すことは少々難しいのですが、そうですねぇ、端的な言葉では、「相手によって態度を変える」ということですかねぇ。子供達は何をしているのか？　私が思うに「大人を試している」のではないでしょうか。どこまでなら許してくれるのか、どこまでやったら叱られるのか、そんなことを測っているような気がします。大人の指導や価値観にブレがあると、そこを巧妙についてくる感じです。

子供が何かをおねだりしたとします。親は「ダメ」と却下します。そこで子供達は他に手に入れる方法は無いかと考え、祖父母におねだりするのです。親と祖父母では、接し方が違うのは当たり前といえば当たり前ですが。子供達はそこをうまくつくのです。これと学校現場での「試し」の行動が重なるかどうか分かりませんが、もしそうだとすれば我々はぶれない価値観と言動を意識しなければなりません。子供に接する大人はそうなければなりませんね。誰もが同じ視点で子供達に接することで、子供達の本当の成長に繋がるのだと、私は思います。

また、「愛情」と「甘やかし」について考えてみる必要があるようです。「子供からスマホやタブレットをねだられた、だから誕生日に買ってあげた。」（子供の安全確保のためにキッズ携帯を持たせることはあると思います。）子供達はそれを使って多くの情報（悪いものも含めて）を得ています。我々大人は、本当にそれが必要なものかどうかを判断せねばなりません。愛情は必要ですが、甘やかしは禁物です。本人の為にならないだけではなく、保護者の皆様をはじめ、他者にも影響が出ます。客観的判断が必要です。

雑感「利己＋利他」

私は学生時代、武道系のサークルに所属していて、「精神的な成熟」も修業の一つでした。その教えに『半ばは自己の幸せを　半ばは他人の幸せを』というものがあります。「自分の事を大切」にしながら、「半分は他人の幸せ」も考えてあげなさいって事です。これは、友達関係も勉強や仕事も同じことがいえますね。この気持ちで行動すれば、必ずみんなに幸せがやってくるんですよ。Win - Win ってやつです。が、ここで大事な事が一つ。先ずは、『自分の事から！』が大事なのです。心（勇気、愛情、思いやり等）も体もしっかり整えることが大事だと私は感じています。その上で半分でも相手の事を大切にできたらいいと思うんです。自分の事を大事にするというのは、難しい事ではありません。自分を頼ってくれる人達のために、健康でいることも「自分を大事にする」という事です。自分の幸せ、家族や他人の幸せは、表裏一体なのです。我々保護者は、自分の子供が利己的な大人になって欲しいとは思いません。

仕事も、利他の考え方は重要です。「私は私の仕事をやってますので、あなたも自分の仕事をちゃんとやってね。」って自分の仕事だけを「こなす」だけで、相手のことを慮ることができなければ、組織としての仕事ができませんし、人相手の仕事はできません。

少々、難しい話題になってしまいました。すみません。

シリーズ「自分を語る」＃９６

世界各国の熊本県人会では、ご子息を日本との“懸け橋”にすべく、日本語も話せるように、定期的に交流をしているようです。特にブラジルの熊本県人会は歴史も古く、会のエリートは殆どが日本語を話すそうです。お陰で私澤田はブラジルの留学生と研修員に、コミュニケーションでの苦労は殆どありませんでした。

県費留学生は、１年スパンで学習を進めます。１名は熊本県立大学、１名は崇城大学で学習していました。どちらもブラジル熊本県人会に所属し、日本語を勉強していたため、どちらも日本語が堪能でした。しかも、彼等は母国語のポルトガル語、日本語の他に、英語は話せて当たり前の様で、当時のＴＯＥＩＣテストで９８０点（９９０点満点）を取ったという程のスキルがありました。正に世界を股にかけてという人材でした。私はとえば、英語に興味はあるのですが、使うシチュエーションがないのです。国際課在籍時代は多少英会話の勉強もしましたが、今では全くダメですね。

県立大学の留学生の専門分野は「企業等のマーケティング戦略」でした。学習内容を県立大学の教授に教えて頂きましたが、専門用語が多くチンプンカンプンでした。また、崇城大学の留学生は「ネットワーク技術とＷＥＢプログラミング」でした。これまた同様です。留学生の学びに関する聞き取りは、大学の先生の専門用語に打ちのめされた気分でした。

唯一、私が非常に興味を持ち、且つ面白く感じたのは技術研修員の方でした。彼の名前は西坂幸二、ブラジルの口腔外科医です。幸二君の主な研修先は、熊本市子飼商店街近くの「伊東歯科」です。九州でも有数の口腔外科設備を誇る歯科医院です。口腔外科手術も行うため、入院施設も完備していました。この歯科医院に視察に行った時、真っ先に院長室に案内頂きました。院長先生は術衣姿で、何でも今しがた手術が終わったということでした。その手術について早速説明を受けました。

「事故で顎を強打した患者さんで、明らかな骨折でした。そのままでは骨折した部分の歯が抜け落ちる可能性があるので、強制的に歯を抜いた上で顎関節をステープルで止めて、その後抜いた歯を再度移植するといった手術です。」

またまた、簡単に話されるのですが、実際のレントゲン写真を使って説明してくださるのでリアルさが違います。その後、手術室にも案内されました。「本物だ～」と子供のような叫び声を上げたいのですが、そこは国際課担当者としてグッとこらえて、「どれくらいの頻度で手術があるのですか？」と尋ねると、

「そうですねぇ、外来の患者さんの診察がありますので、手術の曜日が決められていますから、多い日で１日１５例くらいでしょうか、ただ急患は毎日でも受け入れます。今日の手術もそうです。」

一応、国際課担当者として、それらしい質問をしてみるのですが、専門家からすれば素人の質問なのでしょう、すべてに丁寧に笑顔で答えてくれました。

口腔外科技術は日進月歩で進んでいます。下顎前突は（いわゆる受け口）等は、外科的手術なしでも治療が可能（個人によって違います。）だそうです。医療の進歩は凄いですね。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）